

みなみっ子だより

節目の時期

2月25日に6年生を送る会がありました。6年生はどんな表情で、この時間を迎えてくれるだろう。喜んでくれるといいな…と思いながら少し早めに会場に入りました。会場は、花束をイメージした手づくりの掲示物や暗幕には、かわいい花々が散りばめられ、準備万端の状態でした。ステージ側には、6年生が座る椅子が整えられ、5年生がきびきびした動きで準備を進めてくれています。大事な会の司会や運営を任せられ、「成功させるぞ」という気合いも感じます。それらが相乗効果となって厳かな中にも温かい柔らかな空気が生まれていました。これは絶対喜んでくれる！と確信しました。

6年生が入場してきました。ちょっぴり恥ずかしそうに…。でも表情はとっても嬉しそうです。1年生の始めの言葉で一氣に会場が和らぎ、一生懸命に伝える1年生の言葉に私の胸まで熱いものが込みあげてきました。メッセージがかかれたメダルのプレゼントを手に取りながら、6年生の顔がほころびます。みんな笑顔です。

2年生による感謝を伝える替え歌や、マラカスでのパーカッション。3年生からは、6年生のよいところ紹介。4年生からは、学校4択クイズ。どれも、6年生への「ありがとう」の気持ちが伝わってくるものばかりです。そして最後は6年生の和太鼓演奏。凜とした佇まい。迫力あふれる演奏。下級生にとって憧れの姿。改めて、6年生の存在の大きさを感じずにはいられませんでした。内容を縮小し、いつもよりも短い時間での送る会でしたが、6年生への「ありがとう」の気持ちがいっぱいだった、すばらしい会でした。

さて、3月は年度の終わりの時期であり、よく“節目の時期”と言われます。節があるといえは、「竹」がまず頭に浮かびます。竹は、しなやかで、雨や風や周りの環境にも強い植物です。手で竹を強く曲げて折れず、離すと強くもとのように戻ります。節がない棒だと、このようなしなやかさはなく、力を加え過ぎると途中で折れてしまいます。また、竹の節には成長点があり、それぞれの成長点が伸び、節と節との間を広げることで、竹は高く成長します。人間も同じで、強くしなやかに生きていくには、“節目”をどう生かして、自分を成長させていくかが大切です。この3月は、今の学年のまとめの時期であり、次の学年の準備の時期です。一人一人がしっかりとした丈夫な「節」を作って欲しいと思います。



